

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 宝塚健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>健康日本21（第三次）では、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりが重視されている。当所ではこれまで働き世代を中心とした食育活動を進めてきたが、今後は、生涯にわたる健康保持の観点から、他のライフステージへも取組を広げていくことが重要である。</p> <p>本県の「食育推進計画(第4次)」では、「子どもとその親、若い世代の食育力の強化」を重点事項とし、保育所・認定こども園等における食育推進を施策展開の方向性に掲げている。しかし、各施設での取組状況には差がみられるため、管内全体の取組の質の向上に向けた支援が求められる。</p> <p>また、本県の20歳代女性のやせの割合は高止まりの傾向にあり、阪神北地域においても15歳以上の女性のやせの割合（13.2%）は県平均（12.4%）を上回っている¹⁾。しかし、若年層に特化した実態については十分に把握されておらず、地域の状況に即した効果的な支援策を検討する必要がある。</p> <p>さらに、管内では今後も在宅医療需要の増加が見込まれており（2040年推計/2020年実績比は宝塚市1.80、三田市2.29）²⁾、在宅高齢者に対する栄養・食生活支援の充実が一層重要となっている。</p> <p>1) 兵庫県「令和3年度ひょうご栄養・食生活実態調査」 2) 兵庫県「兵庫県保健医療計画（令和6年改定）」</p>
今年度の推進方策	<p>これまでの取組を基盤としつつ、他のライフステージにも着目した以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 就学前の子どもへの食育支援（事例収集・共有、実態調査、研修会の開催）・ 若年女性への健康支援（実態調査、大学生との意見交換）・ 在宅高齢者への栄養・食生活支援（配食サービス情報の集約、栄養情報連携に関する啓発資料の作成）
成果	<p>多様な関係者との連携を通じ、地域における生涯を通じた栄養・食生活支援を行うためのネットワークの基盤を構築した。また、実態調査（アンケート）を実施し、次年度以降の施策立案に活用可能な基礎資料を整備した。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・ 就学前の子どもへの食育支援については、市が実施している取組も踏まえつつ、適切な役割分担に基づいた支援の在り方を検討する。・ 若年女性への健康支援については、調査結果や地域特性を踏まえ、実効性の高い手法を検討する。・ 在宅高齢者への栄養・食生活支援については、作成した資料も活用しつつ、多職種と協働して個別の支援事例を蓄積し、体制強化を図る。

2 会議の開催状況

実施日時	令和8年2月13日（金）10:00～12:00
参集者 （団体数 及び人数）	・ 栄養士会（2団体） ・ 市食育担当課（宝塚市・三田市） （計4団体5人）
協議内容	・ 実践活動について ・ 今後の取組の方向性（案）について など
今後の方策	市や関係機関と連携し、ライフステージを通じた施策がより円滑につながり、生涯を通じた健康づくりに寄与するよう、引き続き取組を推進する。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	地域で支える生涯を通じた栄養・食生活支援		
対象及び参加者数	<p>(1)①管内保育所等 10施設、②管内保育所等の保護者 175名、③管内保育所等 69施設、④県内児童福祉施設・行政等 101施設・183名（うち管内27施設・41名）</p> <p>(2)①阪神地域の管理栄養士養成施設（4施設）の女子大学生 771名、管内保育所等の保護者 175名、②公衆栄養学臨地実習生 37名</p> <p>(3)①宝塚・三田食形態検討会参画施設の管理栄養士 23名、②宝塚・三田食形態検討会参画施設及び地域団体 45施設</p>		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	(1) 就学前の子どもへの食育支援		
	<p>①6月25日～9月5日 各調査対象施設</p> <p>②6～8月中 オンライン</p> <p>③8月1日～12月5日 メール(隔週金曜・全10回)</p> <p>④令和8年1月22日 オンライン</p>	<p>【訪問によるヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の実践事例を収集・整理。 <p>【実態調査(アンケート)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食事や食育への意識・支援ニーズを把握。 <p>【ニュースター発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の実践事例を体系化したニュースターを発行。 <p>【研修会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食育活動の実践報告(2施設) 2. 講演「児童福祉施設等における栄養・食生活支援の実践について」(相模女子大学栄養科学部健康栄養学科 特任教授 堤ちはる氏) 	<p>宝塚健康福祉事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ ②は保育所等の協力を得て実施。 ※ ③は管内市保育主管課を通じて発信。
	(2) 若年女性への健康支援		
<p>①6～8月中 オンライン</p> <p>②9月19日 宝塚健康福祉事務所</p>	<p>【実態調査(アンケート)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の若年女性のやせの状況や背景要因等を把握。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を基に、今後の支援策について意見交換。 	<p>宝塚健康福祉事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ ①の女子大学生は管理栄養士養成施設、保護者は保育所等の協力を得て実施。 	
成 果	(3) 在宅高齢者への栄養・食生活支援		
	<p>①9月10日 宝塚健康福祉事務所及び オンライン</p> <p>②令和8年2月25日 メール</p>	<p>【研修会・意見交換】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配食事業者における栄養管理の実践報告(2事業者) 2. 意見交換「在宅移行時における栄養・食生活支援の課題と連携の工夫」 <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内配食サービス情報一覧と栄養情報連携の重要性を啓発するリーフレットを作成・関係者に共有。 	<p>宝塚健康福祉事務所 宝塚・三田食形態検討会 公衆栄養学臨地実習生(①の運営、②のリーフレット作成)</p>
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた多角的な取組を展開し、市、保育所・認定子ども園、大学、医療・介護施設、事業者等との連携を通じ、地域における生涯を通じた栄養・食生活支援のネットワーク基盤を構築した。 ・食育の実践事例を体系化したニュースターを発行し、施設間の情報共有を促進した。令和7年度の給食施設栄養管理報告書における食育に係る記載率も前年度から向上し、一定の前進がみられた。また、施設職員向け研修会には施設長を含む多職種が参加し、事後アンケートでは参加者全員が「満足」以上と回答するなど、内容への評価は良好であった。 ・若年女性を対象にした実態調査を実施し、今後の施策立案に活用できる基礎資料を整備した。 ・配食サービス情報一覧と栄養情報連携に関する啓発資料を作成・共有し、病院・入所施設と地域をつなぐ連携ツールとして、今後の活用が期待される。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースターの発行回数 目標：10回（達成状況：100%） ・栄養管理報告書の食育記載率 目標：100%（達成状況：R6年度90%→R7年度98.3%） ・管内配食事業者一覧及び普及啓発パンフレットの共有先 目標：45機関（達成状況：100%） 			

今後の課題	<ul style="list-style-type: none">・ 保育所等での食育活動については、一定の前進がみられたものの、施設ごとの取組状況には依然として差がある。今後は、市との適切な役割分担に基づいた支援の在り方を検討する必要がある。・ 若年女性への健康支援については、本人への直接的な働きかけ、保護者を通じた間接的な支援、環境整備など、多面的なアプローチが必要である。地域の実態や特性を踏まえつつ、広域的な視点から効果的な支援策を補完・強化する役割が求められる。実効性の高い手法を見定め、優先的に取り組むべき方向性を整理することが今後の課題となる。・ 病院・入所施設から在宅への移行時における切れ目のない栄養管理に向けては、作成した資料も活用し、多職種と協働しながら個別の支援事例を蓄積することが重要である。これらの取組を通じ、地域で継続的な支援が可能となる体制づくりを関係機関とともに進めていく必要がある。
-------	---

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

地域で支える生涯を通じた栄養・食生活支援

背景

- 健康日本21(第三次)では、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりを重視。
- 当所ではこれまで働き世代を中心とした食育活動を進めてきたが、**今後は、生涯にわたる健康保持の観点から、他のライフステージにも取組を広げていくことが重要。**

地域におけるライフステージ別の課題

- 【未就学児】**管内保育所・認定こども園における食育の取組状況には差がみられるが、支援体制が不十分。
- 【若年女性】**阪神北地域における女性のやせの割合は県平均を上回っているが、若年層に特化したやせの状況やその背景要因は不明。地域の状況に即した支援策の検討が必要。
- 【高齢者】**管内の在宅医療需要は今後も増加の見込み。在宅高齢者に対する栄養・食生活支援の充実が一層重要。



- 未就学児、若年女性、高齢者に着目し、それぞれの課題に応じた取組を展開する。
- 広域自治体の強みを活かし、市、保育所、大学、医療・介護関係機関など、多様な関係者と連携して推進する。

取組内容・成果

① 就学前のこどもへの食育支援

▶ ニュースレターの発行

- 食育の実践事例を収集してニュースレター全10回を作成し、管内69施設へ共有。
⇒ 施設間の**情報共有を促進**。

▶ 食育及び栄養管理の実践に関する研修会の開催

- 食育と栄養管理に係る施設職員向け研修会(オンライン)を開催。
⇒ 現場の課題解消や**取組の質の向上に寄与**。

現場の創意工夫
を可視化

<食育ニュースレター抜粋>



研修の
満足度100%

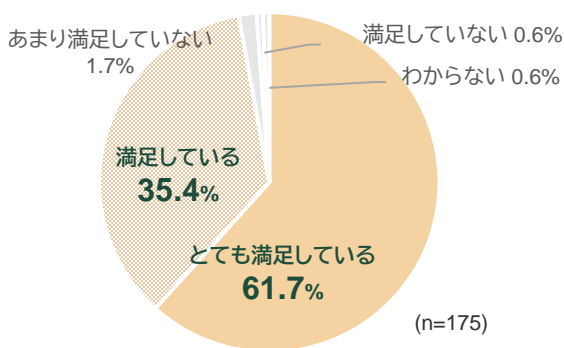
【参加者の声】

- ✓ 現場で疑問や不安に思っていたことが題材として聞くことができ、とても有意義な時間となりました。
- ✓ 食に対する話をもっと職員間で話していきたいと思います。そして、保護者にも発信していきたいと思います。
- ✓ 食育というととても難しそうに聞こえますが、日々の子どもの観察・関わりも食育のひとつと思うので、子どもに向き合った給食・献立作りをこれからもしていきたいです。 など

▶ 保護者向けアンケートの実施

- 保育所等での食事・食育の満足度は高いものの、約9割の保護者がこどもの食事に関する困りごとを抱えていることや、家庭との連携(保護者が学ぶ機会の提供、レシピ共有等)に対する一定のニーズがあることを把握。
⇒ 得られた結果を整理し、関係者と共有することで、**今後の食育支援に向けた基盤を整備**。

<保育所等での食事・食育の満足状況>



<こどもの食事で困っていること>

